

# 月刊 アカサス ニュース

第47号 2000(平成12年).6

「アカサス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアザミ」)です。

トップニュース Top News



## 文学部とプリンストン大学東洋学部(アメリカ)が協定

4月28日、畑安次副学長がプリンストン大学を訪れ、交流協定の調印を行った。



文学部と学部間協定を締結したプリンストン大学東洋学部は、語学教育とともに、東アジアの歴史学と古典文学の研究に特色がある。

調印式に同行した中野節子助教授は、「古い建物が多くかわいい感じのまち。大学構内は広い。授業の密度が高いように感じた。学部長が来日する予定もあり、交流実績を積み重ねたい」と語った。

プリンストン大学であいさつをする畑副学長(写真左から2人目、その左は中野助教授)と、友好親善(石川県とプリンストン市)のため訪米した谷本正憲石川県知事(写真右から2人目)

IVY LEAGUEの名門プリンストン大学は、教授陣約800人、学部学生約6,000人で全寮制である。250年の伝統が息づくキャンパス。250年後の本学角間キャンパスを想う。この交流協定締結を祝福したい。(畑安次副学長談)

## 外国人留学生が「ホームビジット事業」に参加

外国人留学生が、日本人家庭の日常生活や伝統文化などを体験することにより、日本語能力の向上と異文化理解を深めてもらうための「ホームビジット事業」が、5月13日、14日の両日にわたって行われた。

今年の同事業には、留学生17人が参加し、那谷寺見学やおたぴ祭(小松市)に参加するとともに、茶道に挑戦するなど、受入れ家族との交流を楽しんだ。



豪華絢爛な山車(けんらん)の前で、子ども歌舞伎役者とともに記念撮影する留学生 = 5月13日、小松市内で





## 中国青年学生訪日団を迎える

JCPFC( Japan and China Peace Friendly Contact )

5月29日、中国青年学生訪日団( 団長 陳駿・南京大学常務副学長 )の一行15人が金沢大学を訪問した。

「金沢大学広報ビデオ」で大学紹介を行った後、附属図書館など学内施設を見学した。

続いて、畑安次副学長の司会で、金沢大学学生・大学院生20人(うち、中国からの留学生5人を含む)と「国際化・情報化時代における大学の教育研究活動と国際交流の在り方について」のテーマで2時間20分にわたる討論を行った。

井上靖や室生犀星など、金沢ゆかりの作家の文学論か

ら始まり、日本の「不登校」、中国の「一人っ子」など学校教育に話題が移った。情報の有効的活用なしには、教育研究は成り立たないことでは一致した。

ほかに、「愛国心」についても活発な討論が行われ、互いに理解を深めあった。

この後、大学関係者との懇談会が行われた。

訪日団の一行は、5月23日に来日して文部大臣を表敬訪問し、いくつかの大学での討論や県庁などを訪問し、6月1日に帰国した。



中国青年学生訪日団と討論する本学の学生・大学院生  
= 5月29日、総合情報処理センター プレゼンテーション室で



懇談会で歓迎のあいさつをする大橋信喜美留学生センター長(写真中央)と畑副学長(写真右から2人目)  
= 5月29日、角間ゲストハウスで

## 目次

2000(平成12)年6月 第47号

### 【1頁】トップニュース

文学部とプリンストン大学東洋学部(アメリカ)が協定  
外国人留学生が「ホームビジット事業」に参加

### 【2頁・3頁】国際交流・学術交流の「いま」

中国青年学生訪日団を迎える  
蘇州大学(中国)創立100周年記念式典に出席  
薬学部と北京大学薬学院(中国)が協定  
教育学部附属小学校がアメリカ・パーウィックアカデミーを視察  
工学部とサヴォア大学(フランス)が協定

【4頁・5頁】巻頭言・5月のニュース 巻頭言 / アイソトープ総合センターが20周年記念式典を挙行 / 金沢二水高等学校生徒が理学部を取材 / 国家公務員倫理法等説明会を実施 / 自己啓発講演会を開催 / 住民説明会を開く / 「懇談会 - 物理教育を考える -」を催す / 「社会教育研究振興会総会」開催

【6頁】お知らせ 中日文化賞・石川県放射線技師会会長賞受賞 / 金沢市技術開発ゼミナール開催中 / 『技術部報告集第1号』を発行 / がん研究所から刊行

【7頁】学長室・副学長室から 副学長室が完成 / 金沢大学健寿会総会 / 「水淵文学の里」に金子元学長の歌碑 / 蘇州大学創立100周年記念式典の報告

【8頁】平成12年度金沢大学健寿会 / キャンパス点描・医学部・工学部 / 編集後記





## 蘇州大学(中国)創立100周年記念式典 に出席

5月18日、本学と協定を結んでいる蘇州大学(中国)の創立100周年記念式典が行われ、同大学からの招待により、本学から花岡美代次副学長と平山英明国際交流課長が出席した。

100周年記念式典会場風景  
= 5月18日、呉縣市体育館(100周年記念式典会場)で



100周年記念式典に出席した花岡副学長(写真右)と平山国際交流課長(写真左)  
= 同上



## 教育学部附属小学校が アメリカ・バーウィックアカデミーを視察

教育学部附属小学校教員4人が、4月27日、28日の両日にわたって、アメリカ合衆国バーウィックアカデミーを訪問し、児童の作品交換や授業風景を視察した。

この交流は、大塚巖校長(教育学部教授)が、1998年5月に同校を訪問し協定を結んだ。翌1999年には、本学から4人が訪問し、バーウィックアカデミーからは8人を本校に迎えるなど、活発な交流が行われている。



子どもたちとの対面式で、自己紹介の後、歌を歌っている附属小学校教員  
= 4月28日、バーウィックアカデミーで



## 薬学部と北京大学薬学院(中国)が協定

5月12日、薬学部と中国北京市にある北京大学薬学院が部局間協定を締結した。

北京市で行われた調印式には、辻彰薬学部長、御影雅幸教授、廣田清薬学部・がん研究所事務長の3人が出席した。協定後は、北京大学薬学院から推薦される助教授を任用して薬用植物に関する研究・教育を充実させるほか、本年度中に本学教員数人が出向き北京大学で学術シンポジウムを開催する予定。

北京大学は、薬学院が所属していた北京医科大学と本年4月に統合し、中国第一の総合大学となった。



彭師奇北京大学薬学院長(写真右)と協定書を交わす辻薬学部長(写真中央)、御影薬用植物園長(写真左)  
= 5月12日、北京大学薬学院で



## 工学部とサヴォア大学(フランス)が協定

工学部と部局間協定を締結(3月14日)したサヴォア大学は、フランスのサヴォア県にあり、戦後に設立された大学である。現在3つの工科学部を含んで8つのUFR(日本の学部)に相当)を有し、学生数は1万2千人で、本学と同じような規模である。



サヴォア大学紹介パンフ

協定に際しては、小川重義教授が国際学会を通じて共同研究を行っているC.Lecot教授との間で協議が進められ、今回の締結に至った。小川教授は、本年7月にサヴォア大学を訪問し、具体的な交流について話し合うこととしている。



巻頭言

21世紀の大学像を求めて  
—新任のあいさつにかえて—



事務局長  
水上 修一

平成12年4月1日付けで、富山大学から金沢大学に勤務することになりました。

私のこれまでの仕事から紹介させて頂きますと、昭和35年金沢大学に採用になり、その後、文部省を始めとして国立大学に勤務してきました。

文部省での約19年間は、人事行政全般、大学紛争対応と厚生補導の予算、青少年の健全育成といった業務で、国立大学を含めた全体の40年間、文部行政事務に従事してきました。

これまでの仕事を振り返ってみて、国立大学は少なくとも戦後二度、重大な危機的状況に遭遇してきました。一度は戦後間もなく行われた学制大改革の昭和24年であり、もう一度は昭和42年から46年にかけて大学紛争の嵐が吹き荒れた時です。

そしていま、大学が三たび危機に瀕しているのです。今回の危機は「行財政改革」の議論の中から提起された、国立大学の独立行政法人化問題です。

紙面の関係で、詳細は次の機会を頂くとして、現在、国立大学の独立行政法人化については、平成11年4月の閣議決定において、「大学の自主性を尊重しつつ、大学改革の一

環として検討し、平成15年までに結論を得る」となっています。

文部省は、平成12年5月26日、独立行政法人の制度の目的や、国立大学の特性や、役割、機能に照らして、国立大学についても十分適合するものであると考え、今後、同法人制度の下で、大学の特性に配慮しつつ、国立大学を独立行政法人化する方向で、法令面での措置や運用面での対応など制度の内容についての具体的な検討に、速やかに着手し、平成13年度中には、調査検討会議としてのとりまとめを行い、その後、同会議のとりまとめを踏まえ、独立行政法人化後の大学の在り方について、最終結論を得たいとしております。

このような状況の中、本学の重要課題としては、現在進められている総合移転の角間第1期計画及び附属病院の再開発計画の推進と完成並びに医学系研究科、自然科学研究科及び社会環境科学研究科の大学院重点化構想の推進などについて、教職員の皆様の協力を得ながら、21世紀の大学像と大学改革の方策を求めて、歴史と伝統にあふれた金沢大学の一員として精一杯頑張りたいと思います。よろしくお祈りいたします。

アイソトープ総合センターが  
20周年記念式典を挙

5月9日、医学部十全講堂で、アイソトープ総合センター開設20周年記念式典及び記念講演会が挙行された。

同式典では、森厚文センター長のあいさつに続き、林勇二郎学長から「20年は、人間では青年期の真っ盛りであり、今後の新たな発展を期待する」との祝辞があった。

また、記念講演会では、長田重一大阪大学教授及び辻彰金沢大学教授による記念講演が催された。



開会のあいさつをする森アイソトープ総合センター長  
= 医学部十全講堂で

金沢二水高等学校生徒が  
理学部を取

5月25日、県立金沢二水高等学校新聞部(顧問1人、部員3人)が、理学部を訪れ樋渡保秋学部長に取材をした。

同校の取材は、「学科名と研究教育の内容が判り辛い」など、高校生の素朴な疑問から行われたもの。

対応した樋渡学部長は、鋭い質問も出る中、高等学校を含めた地域との連携やサイエンスの重要性を説明した。また学部長は、これを機会に、大学に気軽に立ち寄りしてほしいと述べた。



高校生から取材を受ける樋渡学部長  
= 理学部会議室で





## 国家公務員倫理法等説明会を実施

5月10日「国家公務員倫理法等説明会」が開催され、課長・事務長をはじめ、多数の職員が参加した。

説明会では、人事課が独自に作成した「質疑応答集」により、具体的な解説が行われ、参加者は服務規律の確保について再認識する有意義な説明会となった。



倫理規程について説明する人事課職員  
=事務局大会議室で

## 自己啓発講演会を開催

5月22日、事務局大会議室で、職員に幅広い知識と広範な行政的視野を習得してもらうことを目的に「自己啓発講演会」を開催した。

今回は、コミュニケーターの早川芳子さんが講師を務め、集まった約80人の職員に、「新しい翼 - 語学力が広げる無限の可能性 - 」と題して講演した。



「豊かなコミュニケーションの在り方」について語る早川講師  
=事務局大会議室で

## 教育学部附属養護学校で 住民説明会を開く

5月11日、教育学部附属養護学校は、地域住民に対し、平成12年中に行われる体育館の新営及び校舎改修工事の概要説明を行った。

地域住民に説明する附属養護学校浦田東作副校長と  
本学関係者(写真右)、説明を聞く住民(写真左)  
=教育学部附属養護学校で



## 素粒子論グループ(北陸地区)が 「懇談会 - 物理教育を考える - 」を催す

5月19日、素粒子論グループ(北陸地区)は、「懇談会 - 物理教育を考える - 」を開催(金沢大学共催)した。

同懇談会では、中・高等学校の教諭、大学院生、大学・高専の教官が参加し、「理科嫌い」の現状や原因、「物理教育」の在り方などについての報告や意見交換を行った。



物理教育について討論する参加者  
=石川県立白山青年の家で

## 「社会教育研究振興会総会」開催

5月22日、金沢大学教育開放センターで「金沢大学社会教育研究振興会」総会が開催された。

同総会では、本年度の事業計画とともに、各市町村の社会教育関連事業の実践事例集が配布された。



あいさつをする宮本一雄会長(宇ノ気町長)、宮下孝勝センター長(その左)  
=金沢大学教育開放センターで



## 中日文化賞・石川県放射線技師会会長賞 受賞



第53回中日文化賞の贈呈式が5月31日、中日新聞社本社(名古屋市)で行われ、本学から渡邊洋宇氏(金沢大学名誉教授・前附属病院長)=写真=が受賞した。

受賞は、同氏の「肺がんの腫瘍特性の研究と臨床応用」が医学の分野で優れた業績として認められたもの。



石川県放射線技師会会長賞(功労賞)の贈呈式が5月28日、金沢市内のホテルで行われ、本学から放射線部門の分野で優れた業績を挙げた魚山義則氏(医学部附属病院診療放射線技師)=写真=が受賞した。

## 平成12年度 金沢市技術開発ゼミナール開催中



5月10日から7月26日までの毎週水曜日に、工学部教官等が講師になり、平成12年度金沢市技術開発ゼミナール「メカトロニクス入門コース」が工学部秀峯会館で開催されている。

同ゼミナールでは、製品開発・生産技術に携わる方々が、機電一体化のしくみをマスターすることを目的としている。

技術開発ゼミナール「メカトロニクス入門コース」に参加し、熱心にメモする受講者  
=工学部秀峯会館で

## 工学部技術部が 技術部報告集第1号を発行

設置から6年目を迎えた工学部技術部(部長=畑朋延工学部長)は、このほど、技術部報告集第1号=写真=を発行した。

報告集には、8個人と2グループからの技術報告・論文が寄せられており、いずれも、日ごろの研究支援活動や技術始動の中から生み出されたもので、水準の高いものとなっている。



## がん研究所から刊行

がん研究所は、このたび、漫画風のイラストを用いて同研究所の組織と研究内容を分かりやすくまとめた市民向けパンフ「こまですすんだがん研究最前線」=写真左=を発行し、各方面に配布した。これは、新聞にも報道され、話題を呼んでいる。

また、同研究所の磨伊正義教授、高橋豊助教授から、「がん」などに関する著書=写真右=が発行された。





## 副学長室が完成

平成12年4月に就任した副学長が執務する副学長室が、このほど整備された。従来の学生部長室(2階)を充てると同時に、新たに学長・事務局長・総務部と同じ階の5階に設けられた。



新設された副学長室前の花岡美代次副学長(写真右), 和田敬四郎附属図書館長・副学長(写真左)  
= 事務局棟5階



新設された副学長室で執務する畑安次副学長  
= 事務局棟2階

## 平成12年度 金沢大学健寿会総会

5月30日, 金沢大学を退職した事務系職員で組織している「金沢大学健寿会総会」(会長・林勇二郎学長)が金沢市内のホテルで開催された。

同総会には, 約300人の会員のうち100人を超える会員(最高齢92歳)が出席し, 久しぶりの再会をなつかしみながら在職当時の思い出話に花を咲かせた。

懇親会で歓談する(写真左から), 市村秀夫元医学部事務長, 水上修一事務局長, 林勇二郎学長, 泉寛清元富山大学事務局長, 森次郎元事務局長, 田中幸夫元附属図書館事務部長, 吉田真言総務部長 = 金沢市内のホテルで  
[参加者全員の記念写真は8頁に]



## 「水淵韻文学の里」に 金子元学長の碑

5月14日, 金沢市水淵町の水淵韻文学の里で金子會政元学長の歌碑除幕式が行われ, 林勇二郎学長はじめ関係者約120人が, 碑の完成を祝った。

同里の水淵山荘横に設置された碑には, 金子元学長の「移る世すがた / いとしく眺め / 今日も犀川 / さらさと / 双生」が奥様の句と一緒に刻まれている。



完成した歌碑の前で記念撮影する金子元学長と林学長(写真左)  
= 5月14日, 金沢市水淵町の水淵韻文学の里で

## 花岡副学長が 蘇州大学創立100周年記念式典の報告

花岡美代次副学長が, 蘇州大学(中国)創立100周年記念式典の様式について, 事務局職員約50人の前で話した。



報告する, 花岡副学長  
= 5月26日, 事務局特別会議室で

# 平成12年度 金沢大学健寿会総会



100人を超える会員が出席した「金沢大学健寿会総会」の記念撮影  
= 5月30日、金沢市内のホテルで



## キャンパス点描



### じゅうぜん 医学部十全講堂



医学部創立100周年記念事業の一環として、同窓生からの募金により、昭和38年7月7日に落成した。名称については、漢籍の十三經の周禮の中の「程子曰周官医以十全为上、……」（治療をして、十の内十、完全なものを「上」とするが、……）から、「十全講堂」と命名された。

### 編集後記

“ホスピタブル・マインド”

人と接するときば「もてなしの心」が大事と、ある先生に教えていただいた。

企画広報室の一員となってから、企業や報道機関などに直接出掛ける機会が多くなった。いつも感じることは、相手方の対応がととても親切で細やかなことである。4月に実施した地域との「公開シンポジウム」で「大学は市民に分かる言葉で話してほしい」と御意見もいただいた。「対応」一つとってみても、大学は変わらなければならないと

### しゅうほう 工学部秀峯会館

工学部創立50周年記念事業の一環として、昭和48年3月20日に竣工した。名称については、校歌(工学部)一節の「いざ立て健児この春に/雪を頂く白山の/秀峯(はずみね)高くうち仰ぎ/学と理想にいそしまん」の「秀峯」から、「秀峯会館」と命名された。写真左は、辰巳用水に使われた石管。



いうことを実感している。

さて、今月号は国際交流、学术交流を念頭に記事を組んだ。交流といえば、広報誌もその役割の一端を担っている。広報誌の編集や情報提供は企画広報室の大きな仕事の一つである。情報を通していかに交流を図るべきか、知恵と戦略が必要である。

もっとも、基本は「ホスピタブル・マインド」。

(総務部企画広報室 宮坂 一雄)

平成12年6月23日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-6136  
FAX 076-234-4015

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称「KUPIS」(キューピース)」

(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。

本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = [general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。

